

志清会は、あきる野市議会では志を同じくする11名の議員による政策グループです。

会長	幹事長	会計	広報	書記						
ほりえ たけし 堀江 武史(54) 📍 淵上 🟢6回	うすい けん 臼井 建(54) 📍 秋留 🟢3回	よしざわ ゆたか 吉澤 雄孝(65) 📍 伊奈 🟢2回	うらの はるみつ 浦野 治光(68) 📍 草花 🟢2回	くにまつ まさき 國松 正輝(47) 📍 五日市 🟢1回	こごもり としひと 子龍 敏人(50) 📍 菅生 🟢5回	あまの まさあき 天野 正昭(66) 📍 小和田 🟢4回	むらの えいいち 村野 栄一(56) 📍 二宮東 🟢4回	くぼしま せいいち 窪島 成一(68) 📍 平沢 🟢3回	ひはら しょうご 日原 省吾(58) 📍 野辺 🟢3回	なかむら かずひろ 中村 一広(55) 📍 秋川 🟢3回
都市整備	行財政等	医療・福祉等	環境・経済	観光・移住・定住	子育て・教育等	農林・獣害	公共交通等	生活・高齢者	デジタル等	商工業・防災

※上段：氏名、年齢 / 中段：住所、当選回数 / 下段：担当

阿伎留医療センター 企業長・院長との意見交換会

5月12日に公立阿伎留医療センターにおいて、同センター企業長・院長の根東(こんどう)義明先生と志清会との意見交換会を行いました。

根東先生からは、同センターの役割について「予防、救急・へき地・専門、回復期及び緩和の各医療を担っていますので、高度専門医療機関や近隣病院、診療所との適切な連携の下で、地域住民の皆様へ寄り添う医療を提供しなければならない」との強い意思が示されました。特に重要な取り組みが病院発展のキーワードである「デジタル・トランスフォーメーション(DX)」であり、現在、センター内全体の情報をデジタル化し、より効率的で安全かつ質の高い業務へと転換をしている状況であります。

また、がん治療の3本柱と言われる外科治療・放射線治療・薬物療法の中でも、放射線治療の主役である「Linac(リニアック)」という機器が老朽化のため利用停止になっていましたが、予算を確保し早期導入ができるよう進めているとの説明がありました。

今後、同センターでは、2025年の公立阿伎留病院開設100周年に向けて、予防・感染・災害医療センター(仮称)を新たに設置して、**予防から終末期までの医療全体をサポートし、地域中核病院としての体制を充実させたい**と語っておられました。

上：企業長・院長との意見交換会
下：阿伎留医療センター外観



阿伎留医療センター
ホームページ

志清会からの一般質問

志清会では、この意見交換会の成果をさらに高め、同センターの地域医療体制をより強固なものにするため協議を行いました。そこで、課題を次のとおり整理し、阿伎留病院企業団議会で一般質問しました。

01 医師の過重労働に伴う働き方改革について

Q 令和6年4月から医師の働き方改革として、時間外労働の上限規制の管理などが重要になると思うが、医療センターの現状の課題と取り組み状況は？

A 医師の働き方改革では、勤務医の時間外・休日労働時間の上限規制を適用し、令和6年度から上限時間が960時間*または1,860時間*となる。そのため、**医師事務作業補助者の確保**を進めて、医師の業務負担軽減を行い、**すべての常勤医師の時間外労働が960時間以内**となるよう考えている。



02 予防・感染・災害医療センター設置検討の進捗状況について

Q 令和5年度運営方針で述べた予防・感染・災害医療センター(仮称)設置検討の進捗状況は？

A 予防・感染・災害医療センター(仮称)設置検討の進捗状況は、令和5年4月から企業長直轄の予防医療センター準備室を設置し、**放射線技師、臨床検査技師、看護師(専任2名)、事務職員**を配置して予防医療について検討を行っている。現在は、公立病院及び地域医療機能推進機構などの健診センターへ視察し**課題の抽出と当企業団が進むべき方向性を企画検討**している。

03 秋川流域住民の救急患者の受け入れについて

Q 秋川流域の住民は、救急患者の受け入れを阿伎留医療センターに依存しているが、救急患者の受け入れ状況は？

A 救急患者の令和5年4月の受け入れ状況は、救急受け入れ患者数は418件うち救急車受け入れは130件である。常勤医師数は、49名まで回復しているが、医師増員の効果が見られるまでには少し時間がかかる場合がある。引き続き、地域のニーズに応えられるように、**救急車受け入れは年間2,000件をめざし、一人でも多くの救急患者を受け入れられるよう努力**する。



*勤務医の残業時間の上限は原則年960時間。地域医療を担う医療機関などで、長時間労働を避けられない場合は年1,860時間。

今後の新型コロナウイルスワクチン接種についての要望

令和5年5月から高齢者などを対象に新型コロナウイルスワクチンの追加接種が開始されましたが、今後は、国が今年9月以降の当該ワクチン接種の開始に向けて検討をする予定です。

そのため市においても、国や都の動向を的確に把握しながらワクチン接種を効率的に進める必要があります。そこで、6月8日、市長に対し**集団接種の実施の検討や必要な事業の見直しなどについて要望**しました。



新型コロナウイルスワクチン接種関係事業について



左から中嶋市長、堀江会派長、白井幹事長

带状疱疹ワクチン接種の助成制度創設要望を市長に提出



中嶋市長(左から5人目)と志清会メンバーで直接要望

身体に激痛を伴う带状疱疹は、**50歳を超えると発症しやすくなり、80歳までに3人に1人が罹患する**と言われています。

志清会では、6月12日に市民の健康を守る観点から、東京都補助制度を活用した**带状疱疹ワクチン接種の助成制度**を早期に創設し利用者の負担軽減を図るよう、市長に要望しました。

带状疱疹ワクチン接種補助に関する要望



南秋留小学校自閉症・情緒障害特別支援学級(ひばり学級)などを視察

5月31日に、市内の南秋留小学校と南秋留児童館・学童クラブを訪問しました。4月に市内小学校において初めて設置された南秋留小学校の自閉症・情緒障害特別支援学級(ひばり学級)の運営状況や放課後子ども教室の実施状況、また、学童クラブの現場を視察し、**現状を伺うとともに、課題の把握**にも努めてきました。

ひばり学級では、パーテーションを効果的に使い、子どもたちが落ち着いて授業が出来ていることを確認する一方、**今後のニーズの高まりへの対応が求められる**と感じました。

放課後子ども教室では、とても多くの児童が登録して活発に行われている一方で、**有償ボランティアの安全管理員の増員が課題**と受け止められました。また、学童クラブでは子どもたちが元気に活動

している様子が見られましたが、**入会児童が増えていることへの対応も課題**ではないかと感じました。

会派では、今後も自閉症・情緒障害特別支援学級などの取り組みを支援し、**全ての子どもたちが安心して通える学校づくりをサポート**してまいります。また、6月1日に開会した市議会6月定例会議でも**視察の課題などを早速取り上げ、今後の取り組みについて質問**しました。



南秋留小学校の視察

宮崎県 宮崎市及び都城市の視察

3月29・30日に、宮崎市の議会DXと都城市のマイナンバーカードのそれぞれの取り組みを視察しました。

宮崎市の議会DXは、民間企業と協力して**議会と住民が双方向で繋がるウェブサイト「まちだん」**を導入して、議会報告会の動画配信や活動状況の見える化、議会への相談の受付も行っています。この「まちだん」は、**住民にとって身近な議会**を創り出していく有効な手段として、全国的に注目されています。



宮崎市の視察

また、都城市は、**マイナンバーカード普及率日本一**を誇るなど行政のデジタル化を強力に推進しています。特に、全国に先駆けて導入した**タブレットを活用した申し込みの簡易化や、高齢者宅への出張サービス**など、マイナンバーカードに関するあらゆる手法を駆使して**自治体経営の効率化と市民生活の利便性の向上**に取り組んでいます。

私たち志清会では、**あきる野市議会の情報化及び本市のマイナンバーカードの普及推進**にしっかり取り組んでまいります。



都城市の視察

政策・活動はホームページでもご覧いただけます。

自由民主党 志清会

お問い合わせ先

☎ 070-4342-6863

志清会

<https://www.akiruno-jimin.tokyo/>

検索

